



# 公立世羅中央病院だより

No.59

## 救急外来受診の手引き(12)

### —動悸編—

公立世羅中央病院 内科部長 亀田 直毅

「動悸がするんです」私たちが日常の診療中によく耳にする言葉です。では動悸とは一体なんなのでしょうが。

辞書などで調べてみると「胸がどきどきする」と、そういう自覚症状「あるいは」心臓の鼓動がいつもより早くうつつこと」などの説明がされています。つまり実際に心臓が早く鼓動していることをさすこともあれば、そうとは限らず、どきどきしている、という自覚症状をさすこともある、とうつつことです。

「動悸」がする状態というのは気持ちのよいものではありません。いつもは動いていることを自己主張しない心臓が何か変であることをア

ピールしているわけです。まずそのような時にしてみたいことがあります。それは自分で脈をふれてみることです。誰でも手首のあたりで脈をふれてみたことがあるのではないのでしょうか。脈をふれることができたなら①一分間に何回くらいうつつているのか ②脈と脈の間隔が規則正しいのか、バラバラなのか について調べてもらえれば、と思います。

脈拍数が一分間に140回以上であったり、40回未満であるようであれば上室性頻拍、房室ブロックなどの不整脈の可能性が高いです。また脈がバラバラであれば心房細動、期外収縮などの不整脈を考えます。

動悸の症状のある方が来られた際には一般的には心電図検査をまず行います。その検査だけで診断がつくこともありますが、場合によっては貧血、甲状腺機能の異常からくる脈拍の異常などを考え血液検査を行ったり、心臓の超音波検査、24時間心電図を付けて頂くホルター心電図という検査を行ったりすることもあります。

またどのような時には救急で受診すればよいのか、という点についてお話ししたいと思います。①失神したり、目の前が暗くなるような感じがするとき ②胸痛、呼吸困難などの症状を伴うとき これらの場合に

はためらうことなく直ちに受診してください。またそこまでのひどい症状はなくても先ほど述べたように脈拍数140回以上が続いている場合などには長時間その状態が続くとしても多くなることが多いので早めの受診をおすすめします。また常に脈が不規則にうつつている状態は心房細動という不整脈の可能性が高く、脳梗塞などの原因となることもあります。以上のような緊急を要するものではなくても、動悸がする状態というのは不安なものです。そのような自覚症状がある方は早めに医療機関を一度は受診し、ご相談されることをおすすめします。

